

知的財産事例

株式会社鈴木又五郎商店

国際的ビジネス感覚を活かした知財経営 健康食品としての“玄米”を広めるために

事業内容

1991年株式会社設立（創業1870年）
米、米加工品、肥料、農薬、農業資材、塩、アルコール類の卸小売

知的財産権と内容

商標第6222031号	HAPA RICE
商標第6224318号	又（カネ）
商標第6697187号	又（カネ）\ 乳酸菌あきたこまち玄米

（2024年7月現在）

専務取締役 鈴木アヒナ麻由さん

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA

専務の日本帰国を契機に自社製品の開発がスタート

当社が株式会社を設立したのは1991年。前身となった会社は米づくりが盛んな湯沢市ならではの風土を活かし、明治3年から魚粉などで肥料を製造して販売していた。現在の鈴木代表は6代目にあたり、ご息女の鈴木アヒナ麻由専務が自社製品の開発や知財の取得を担当している。米穀集荷のほか、肥料、農薬、農業資材、塩、アルコール類などを提供する卸小売業者として事業者向けサービスを幅広く手がけていたが、鈴木専務が移住先のハワイから帰国したことを契機にオリジナル商品『HAPA RICE（ハパライス）』の構想がスタート。ちょうど6代目の「付加価値の高いお米を売り出す小売業を始めたい」という考えにも合致していた。

玄米の新たな可能性を広げる『HAPA RICE』

知財取得のきっかけとなった『HAPA RICE』は、地元秋田のあきたこまち精白米と玄米を独自の基準でブレンドした健康食品だ。本来、玄米と白米は炊く時間が異なるが、自社で培われた150年の技術により同時に炊いても美味しく食べられる比率を発見。“HAPA”はハワイ語で「ミックス」を表す言葉で、幸い日本では商標登録されていなかったため、第一号になるべく乗り出したという。本格的に商標を検討したのは、事業について「ゆざわ-Biz（湯沢市ビジネス支

援センター）」に相談した時。そのオリジナリティを守るために知財を取得しては？と勧められ、あきた企業活性化センター内のINPIT知財総合支援窓口を紹介された。6代目までは知財に関わる機会を持たなかった当社だが、「ゆくゆくは独自の路線を歩むために検討しなければと考えていた」と鈴木専務は語る。鈴木専務はハワイ、アメリカでのビジネスの経験から、何事も契約が大事だという意識があり、必要な投資として積極的に取り組んだそうだ。

大学との共同研究も行い、玄米の普及を推進

玄米に着目したのは、鈴木専務がハワイ在住時代にセラピストの仕事をしていた頃、健康意識が高い人の中では当たり前玄米が食べられていると知ったからだった。そこで地元あきたこま치의玄米を試してみたところ、その美味しさに感動したという。ちょうど日本でスーパーフードが流行していたこともあり、「せっかくなら、もっと身近なスーパーフードがあるを知ってほしい」と日本で家業を継ぐことを決めた。現在は秋田大学との共同研究によって生み出された、栽培段階で乳酸菌を配合する『乳酸菌あきたこまち玄米』の普及にも力を入れている。こちらは技術の核となる部分はあえて権利化せず営業秘密としているが、何らかの形で権利を取得したいと考え、ロゴと名称を合わせて商標登録した。屋号として長年継承してきた

ロゴは、当社の歴史を感じさせるスタイリッシュなデザインだ。こういった自社製品は主にオンラインで販売し、InstagramなどのSNSでPRを図っている。若者の米離れが懸念される昨今、「スーパーフードのイメージや洗練されたパッケージに惹かれて購入し、SNSに投稿してくれる方々がいるのは嬉しい」と鈴木専務は話した。今後はハワイのスーパーに進出・販売する予定で、アメリカでの販路開拓を進めていく方針だ。

売上に繋がるまで3年の時間を要した



とはいえ、知財を取得してすぐに売上に反映されたわけではない。製品の販売開始後にコロナ禍に突入し、営業活動が難しくなったこともあり、3年ほど売上が伸び悩む時期が続いた。しかし、参加した展示会でECサイトの運営会社や健康食品会社など様々な企業が興味を持ってくれた経験に励まされ、根気強く戦略を練った。展示会に出展する際は、商標登録で権利の基盤を作れたことも安心材料となったという。結果、コロナ

明けから徐々に顧客が増え、現在は全国的にリピーターを獲得している。オンラインでの購入を機に、秋田へ訪れるファンもいるようだ。

知財取得を目指す経営者へのメッセージ

注目!

「みなさん親切に教えてくれるので、知財取得の際には支援機関を活用した方がいい」と鈴木専務は話す。INPITの知財総合支援窓口はもちろん、今回相談されたような地域の支援センターがきっかけとなることもある。また、大学との共同研究の際には「最初に、大学側にこの商品に対して自分が求める目標を伝えることが大切」と語った。良いものを作りたい、という思いだけではなく、どこまで研究を進めるか、どこ（売れる商品）を目指しているのか、など事前に具体的に示し合わせを行うことがリスク回避にも繋がった。



あきたこまち精白米と玄米をブレンドした「HAPA RICE」



「乳酸菌あきたこまち」は、栽培段階で乳酸菌を配合しているのが大きな特徴だ



知的財産活用のポイント

行動力と国際的なビジネス意識が 着実な成果に繋がった

鈴木専務は自身を「何事もあまり重く考えすぎず、身体が先に動くタイプ」と表した。実際、アイデアを形にするところから、大学との共同研究、開発、知財取得に至るまで一人で一貫して対応しており、その上パッケージデザインや写真撮影も自身で行っているようだ。少数で進めるからこそその早い意思決定と

エネルギーが、知財取得やプロモーション活動に大いに活かされている。また、まずは自社で権利を取得し他社との衝突や訴訟を避ける、大学との共同研究では自らの考えをはっきり伝えるなど、アメリカで培われたビジネス感覚もリスク回避に役立っている。“米需要を増やし、人々の健康に寄与した米づくりを秋田から発信したい”という思いを胸に、今後も邁進していく予定だ。

COMPANY DATA

取材：2024年7月

企業名：株式会社鈴木又五郎商店 所在地：秋田県湯沢市大町1-2-26 電話番号：0183-73-5130

URL：<https://www.kanemata-suzuki.com/> 創業：1870年 資本金：1000万円 従業員：9名

